

Hondaの「安全」への想い 事故から、人の命と 未来を守るために

約40年前、安全運転の普及を使命として、Hondaの安全運転普及本部は誕生しました。

ハード(製品)とソフト(安全教育)の両面から安全を追求するとともに、
「人から人への手渡しの安全」と、危険を安全に体験する「参加体験型の実践教育」を
活動の原則とし、現在までその活動は途切れることなく続いています。

Hondaの「安全」への想い、安全運転普及活動の始まりと歩みについてお伝えします。



役員室での決断

「それは結構なことだ。ぜひ、やってくれ。」

一九七〇年九月十二日。ホンダの役員室で、社長の
本田宗一郎と副社長の藤澤武夫は、専務の西田通弘
からの提案に迷わず決断を下しました。その提案と
は、ホンダが一九六四年から、白バイ隊員や郵便配達
員などの官庁や企業を対象に行っていた二輪車の
交通安全教育を、一般ユーザーまで拡大し、さらに
四輪車にも適用することでした。

また、この提案時に西田は、「耐久消費財である
クルマは、ハードウェアとしての安全性を保証する
だけでなく、使用者に対して、正しく楽しい乗り方
といったソフトウェアを加えて、初めて商品になる。
すなわち、ソフトウェアも商品であるという考え方に、
頭を切り替えるべきである。」と語り、車と安全
教育の相互関係を強く訴えました。

その年、交通事故死者数は年間二万六千七百人と
史上最悪を記録。「安全運転」という考えも社会に
あまり知られておらず、多くの人の命が失われてい
たのです。

全国の人々に安全を届けたい

それから二十日後の一九七〇年十月二日、自動車
メーカーの社会的責任として、安全運転を全国に
広めるために「安全運転普及本部」(以下、安運本部)
が設立されました。参考となる組織がどこにもない
中で、驚異的ともいえるスピードでの発足でした。

一日でも早く設立することが、一人でも多くの命を救うことにつながると考えられたからです。

そして設立の約半年後、活動についての契機が訪れます。それは、ホンダが出した新聞の全面広告でした。広告には企業姿勢と共に「安全運転普及のための活動」という題で、「安全運転普及指導員の育成」など、十一の活動が宣言されました。宣言に示された活動の重要性と目的は、瞬く間に全国四輪・二輪販売会社のスタッフに広がり、宣言に賛同した多くのスタッフが安全運転普及指導員の資格を取得し始めました（現、セーフティコーデイネーター・チーフセーフティコーデイネーター／ライディングアドバイザー）。その後、「血の通う言葉と心でお客様を事故から守ろう」という店頭活動の考え方も浸透し、彼らは人から人への「手渡しの安全」を担う存在として急速に成長していくこととなります。そして、設立二年後には、安全運転普及指導員は八千人、安全運転講習会への一般参加者も六万人を超えるなど、活動は全国的なものとなり「安全運転」は着実に社会に浸透していったのです。

危険を安全に体験する場の拡大

安運本部の設立後、鈴鹿の安全運転講習所（現、鈴鹿サーキット交通教育センター）では、これまで行っていた官庁・企業の運転者への安全運転講習に加え、当時、社会問題となっていた青少年の暴走行為抑制のため、高校生向け安全運転講習に取り組むなど、活動の幅を広げていきました。

一九七八年には、二輪車の運転初心者向けの「ホンダ・モーターサイクリスト・スクール（HMS）」、一九九二年には、四輪車の運転初心者向けに「ホンダ・ドライビング・スクール（HDS）」を開始。共に実車を使い危険予測能力を身につけるホンダ独自の安全運転プログラムは、多くの参加者から好評を得て、今日でも続いています。交通教育センターも、現在では全国八カ所に設置され、動画KYT（危険予測トレーニング）などの座学や、参加体験型の実践教育を通し、危険を安全に体験する場として活動しています。

時代と共に、車やバイクの「ハード面」での安全性は格段に進化しました。同時に、運転者の技術という「ソフト面」での安全性も進化しています。そして、ソフト面での安全性向上の場として、交通教育センターはこれまで大きな役割を担ってきました。現在では、女性や高齢者向け、エコ&セーフティドライブなどお客様や社会のニーズに合わせた新しい活動にも挑戦しながら、より豊かなモビリティ社会の実現に向けて大きな役割を担っています。

交通事故の危険を疑似体験

「どうすれば事故の危険を体験して学べるか。」

安全運転教育が進む中で一つの課題が持ち上がります。実車を使った講習には限界があり、特に路上で実体験をさせるのは不可能だったからです。そこでホンダは、一九八八年から交通事故を研究し、危険を疑似体験できる独自のシミュレーター開発に挑戦しました。そして、一九九三年に「ホンダライディング・

シミュレーター（二輪車）」が完成。その後も、さまざまな状況下での危険場面を学べる四輪シミュレーターや交通ルールやマナーを楽しく学べる自転車シミュレーターなどを開発し続けています。もっと効果的なシミュレーターを創りたい。その想いと可能性はさらに広がっています。

人と人がつながり、安全は広がり続ける

ホンダには、「人間尊重」という企業理念があります。「あらゆる立場の、一人ひとりのすべての人が、かけがえない存在である」という考え方であり、その考え方は安全への取り組みにも受け継がれています。「安全運転」の運転者教育に始まり、現在では、子どもから高齢者まで生涯にわたる交通安全教育に取り組んでいます。

来年は「安全運転普及本部」設立四十周年。モビリティ社会で暮らす、すべての人が安全であるために、「手渡しの安全」を実現するために。その歴史はさらに続きます。

（語り継ぎたいこと チャレンジの50年）より

